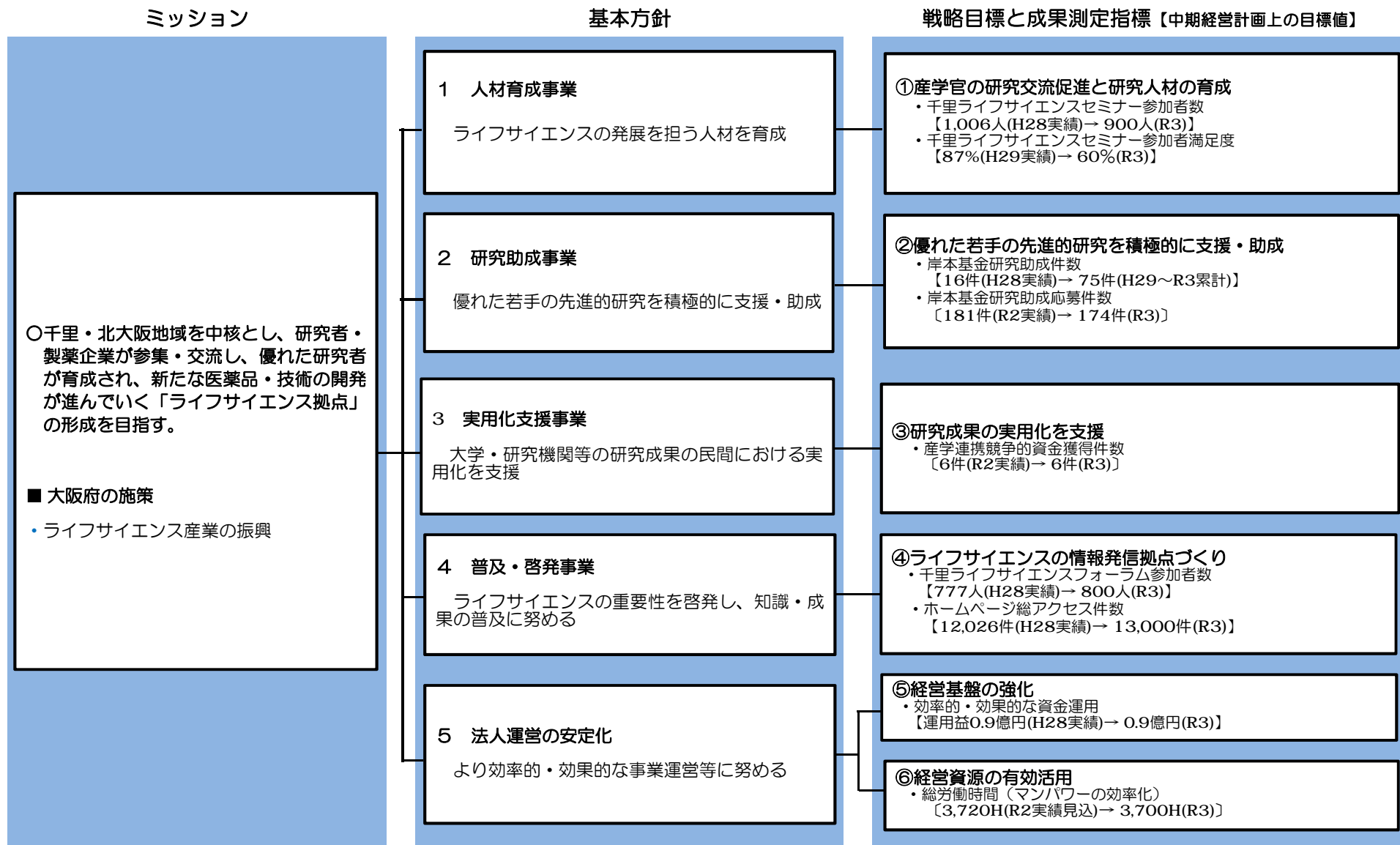


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績	R2		R3目標	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29～R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						目標値	実績値 [見込値]			R3目標	最終年度 目標	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者数		人	30	959	240		1,800	30	900	900	<ul style="list-style-type: none"> ・第一線の専門家・研究者を講師に招き、先端的な研究をテーマに最新の研究成果・動向等を紹介・発表することにより、より魅力的なセミナーとしていくとともに、積極的なPRを通じて参加者数の安定的確保に努める。 ・R2年9月から従来のリアル開催をWeb開催に変更したことにより、参加者数が大きく増加した。R3年度も引き続きWeb開催を行うこととするが、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」)の動向を踏まえ、リアル開催も同時実施する予定。 ・1講演の参加者数はR2年度の実績値の300人とする。また、R2年度に中止したセミナーをR3年度に開催するため、セミナー開催数は6回とした。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○前計画(H24～H28)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査ともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指した千里ライフサイエンスセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の21名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマ(R3年度は6テーマ)を選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>											
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。											
	<p>○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選定。</p> <p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選定し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。</p> <p>○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p> <p>○コロナ拡大防止のため、R3年度はWeb開催を原則とし、感染状況の動向を見て、リアル開催も同時実施する。</p>											

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29～R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						目標値	実績値 【見込値】			R3目標	最終年度 目標		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 (「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」 +「役に立たなかった」)		%	10	89.3	89.3		↓ 90.1	10	60	60	H29～R2の4年間実績の 平均値を目標値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
						95.2							
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数(中期計画期間中)		件	5	15	15		15	5	15	累計75	中期経営計画のR3目標値 ・寄付額30,000千円、1人 当たり助成額2,000千円	審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査 を行い、採択レベルの向上を図る。
						15							
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数		件	10	196	215		↓ 174	10	-	-	R1からR2への減少率の半 分に抑えるよう目標値に設 定	財団HPで応募要領を開示するとともに、 自然科学分野に関する学部・大学院を有 する主要大学の学部長・研究科長に応募 要領を送付し、学内での案内を依頼する。
						× 181							
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	産学連携競争的資金獲得件数		件	15	6	6		6	15	-	-	H30～R2の3年実績の平均 値5.7件を上回る目標値に 設定	AMED等の公募情報について全国各地で 説明会を開催するとともに、財団コーデ ィネーターが獲得に向けて研究者やベン チャー企業等の相談に適宜サポートを行 う。
						6							
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	10	730	490		800	10	800	800	中期経営計画の目標値に設 定 R3年度はリアル開催ととも に、Web上の録画配信も実施 する。 1講演の参加者数を約70人と し、11回分を見込んだ。	引き続き新規のクラブ会員獲得を図ると ともに斬新で魅力的な講演テーマ、講師の 選定を行い、積極的に参加者の募集を行 う。
						506							
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	9,986	10,000		13,000	5	13,000	13,000	中期経営計画の目標値に設 定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナー の掲載案内、メルマガへの掲載依頼等 を通じ、財団HPへのアクセス件数の増 を図る。
						× 8,962							

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29~R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						目標値	実績値 〔見込値〕			R3目標	最終年度 目標		
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	0.92	0.90		↓ 0.90	10	0.90	0.90	中期経営計画の目標値に 設定	資産運用規程に基づき、長期的な観点か らのより効率的・効果的な資金運用を行 う。
						0.94							
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	3,663	3,660		3,700	5	-	-	R2実績からの縮減を指 す。	事務事業の効率化、業務改革の推進によ り、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出 向者を除く)の総労働時間数の縮減をめ ざす。
						× 3,720							

【凡例】

- ・☆はR2からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○ 令和2年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	617	年2回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が95.2%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。	（結果を踏まえ実施した取組） 企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。 （今後実施予定の取組） 中期経営計画（H29～R3）により、H29から新規に設定した目標であり、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。

○ 令和2年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	1,800	年6回開催

・CSに関する令和2年度目標（再掲）【※ 成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	R1実績	R2目標	R3目標値	CS調査の数値を戦略目標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績（見込）		
産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	89.3	89.3	↓90.1	（設定した理由） セミナーは、当法人の設立目的を実現していく上で重要な事業であり、その「参加者数」を最重点目標としているが、参加者がセミナーの内容に満足したかどうか、即ち、「大いに役立った」「役立った」と感じてこそ、研究の交流や研究人材の育成といった効果が生まれるものである。そのため、引き続き「大いに役立った」「役立った」を具体的な満足度の指標とする。 （何をめざすのか） 高い満足度を安定的に確保していく。 （目標値の根拠） 引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、H29～R2の4年間実績の平均値90.1%を目標値に設定する。 H29 H30 R1 R2 87.0% 89.0% 89.3% 95.2%
				95.2		

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値(見込値)
岸本基金研究助成応募 件数	件	215	181

未達成の 要因と分析	<p>・概ね一貫して増加してきた応募件数であったが、平成29年度の271件をピークに3年連続で減少しており、他の同様の研究助成も減少傾向にある。これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者が減っていることなどが大きな要因と考えられる。</p>
-----------------------	--

今後の 改善方策	<p>・全国的な博士課程入学者、若手研究者の減少という状況下にあるが、今後ともより多くの応募件数を確保できるよう、引き続きHP、学会誌等への掲載を行っていく。また、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に対し、引き続き学内での周知、案内を依頼するなど、本事業の一層の広報を図っていく。特にR3年度においては10周年誌の作製、配布など本助成事業を一層広報することにより減少傾向を抑える。</p>
---------------------	--

〔2〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値(見込値)
ホームページ総アクセス件数 (月平均)	件	10,000	8,962

未達成の 要因と分析	<p>・コロナのためR2年度はセミナー、新適塾、フォーラム等の主要事業を8月末まで中止した結果、年度前半の当財団へのアクセス件数は大きく減少した。</p> <p>・しかし、9月以降Webでの行事を再開すると、アクセス件数が大きく増加し、1月以降は10,000件以上のアクセス件数となっている。</p>
-----------------------	---

今後の 改善方策	<p>・今後とも当財団のイベントについては、Web開催を継続実施していく。また、魅力あるコンテンツの充実を図るとともに、時宜に合った最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実に努める。</p> <p>・さらに、当団体のイベント情報を発信力のある団体等に掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、閲覧機会の増を目指す。</p>
---------------------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値(見込値)
総労働時間（マンパワーの 効率化）	時間	3,660	3,720

未達成の 要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのためR2年度はセミナー、新適塾、フォーラム等の主要事業は8月末まで中止し、9月以降はWeb開催することとなった。 ・財団としてはWeb開催の事前準備や当日のトラブル対応及び講師との調整などで時間外勤務が増え、総労働時間の目標を達成することができなかった。
---------------	---

今後の 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともWeb開催を継続実施していくが、経験を重ねることにより効率的な実施に努めるとともに、業務処理方法の改善を図るなどにより、総労働時間の縮減を目指す。
-------------	--

〔4〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値(見込値)

未達成の 要因と分析	
---------------	--

今後の 改善方策	
-------------	--

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	95.2	90.1

マイナス (現状維持) 目標の考え方	H29年度以降4年間の実績を踏まえ、引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、過去4年間の実績値の平均値90.1%を目標とする。																							
	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>H29</td> <td>⇒</td> <td>H30</td> <td>⇒</td> <td>R1</td> <td>⇒</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>参加者満足度</td> <td>87.0%</td> <td></td> <td>89.0%</td> <td></td> <td>89.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>95.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		H29	⇒	H30	⇒	R1	⇒	R2	参加者満足度	87.0%		89.0%		89.3%				95.2%					
	H29	⇒	H30	⇒	R1	⇒	R2																	
参加者満足度	87.0%		89.0%		89.3%																			
	95.2%																							

〔2〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
岸本基金研究助成件数	件	15	15

マイナス (現状維持) 目標の考え方	・本助成事業の財源は寄付金30,000千円であり、1人当たり助成額2,000千円を踏まえ、15件（中期経営計画のR3年度目標値）とした。

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
岸本基金研究助成応募件数	件	181	174

	<p>・全国的な若手研究者の減少が続いており、今後も応募件数の減少が見込まれるが、自然科学分野に関する学部、大学院を有する主要大学の学部長・研究長に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、10周年誌の作製、配布など本助成事業を一層広報することにより減少傾向を抑える。</p> <p style="text-align: center;"> R1 ⇒ R2 ⇒ R3 件数 196 181 174 減少率 △7.65% △3.86% 減少数 △15件 △7件 </p>
--	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
産学連携競争的資金獲得件数	件	6	6

	<p>H30～R2の3年間の実績の平均値5.7件を上回る6件を目標値に設定。</p> <p style="text-align: center;"> H30 ⇒ R1 ⇒ R2 件数 5 6 6 </p>
--	---

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	0.94	0.90

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、これまで元本保証の為替変動型仕組債を資金運用で活用してきたが、昨今の低金利下で利息収入も低迷している。</p> <p>・そこで、運用対象商品の格付けを拡大するとともに資産構成も柔軟に取り扱えるよう資産運用規程を改正した。</p> <p>・仕組債は為替変動リスクを前提に高利率が得られるものであるため、R2年度末はコロナワクチンの普及を為替市場が好感し為替相場が有利に働いた（ドル高円安）が、今後もリスク変動は避けられないことから、中期経営計画どおりの目標値とした。</p>
--------------------------	--

〔6〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値

マイナス (現状維持) 目標の考え方	
--------------------------	--